

いまイラクは.....イサームからの手紙-その2

ある日のバクアッドの遺体安置所

バクダット市中心部近くのバブ・アルムサームに、バクダット中央遺体安置所と呼ばれる遺体安置所がある。そこには3つの冷凍室がある。2003年の占領前までは、そこは世間普通の安置所のように、解剖のための少ない遺体が置かれていたにすぎなかった。遺体解剖のための医師2名とスタッフ2名いただけだった。占領後の現在、バクダットのいたるところで、民兵やデスコッド(死の部隊)、警察、占領軍により、とりわけ2月のサマラ攻撃以降、イラク人が殺害されることが普通になってから、この遺体安置所は、有名になった。これら遺体のほとんどは、殴られたり、電気や酸(HNO₃)を受けたり、ドリルで穴をあけられたり、その他手段不明の恐るべき方法によって、拷問を受けたあとがある。現在では、警察に逮捕されるということは、すなわち、数日後にはバクダットの市街で遺体で発見されるということを意味している。

遺体安置所の30メートル周辺まで死臭がただよっている。そこには悲しみ、泣き叫ぶ多くの人々、そこで何かを待っている人々がいる。私は、その1人に何を待っているのですかと尋ねたところ、彼曰く、彼らすべては、数日前から行方不明になっている息子、父親、母親、友人を探しにきているのだと、警察官の制服を着た民兵に逮捕されたので、この遺体安置所に家族を探しにきているのだと。

- 彼らは、失踪した人を捜せたのか

何人かの人は見つけることができたが、未だ見つけられない人もいる。毎日、何回もイラク警察が遺体を安置所に運んで来るが、その中に失踪した家族がいなか探すのである。アーメドと話をしていたとき、2台の警察の車が到着した。待っていた人たちは、息子らは警察の車に殺到し、息子らが遺体の中にいないかを探し始めた。とても悲惨な光景だった。一人の男が、「これは俺の息子だ、息子を永遠に亡くしてしまった」と叫んだ。周りにいた人々も悲しみの叫びをあげ、その男に同情した。私でさえ、涙が落ちてくるのを止められなかった。その遺体には、多くの穴があったが、それらはボルトやドリルのようなもので開けられたものだ。遺体が安置所の中に運び込まれた後、私はその父親にいくつか質問した。彼の名はアリといった。

- あなたの息子を殺したのは誰だ。

誰に殺されたのかはわからない。息子は、アルラシード通りで商店を営んでいた。3日前に警察に逮捕され、こうして殺されたのだ。

- なぜ、彼らはあなたの息子を殺したのか

彼がスンニだからだ。警察や民兵は何の理由もなくだれかれかまわずスンニを殺している。

- あなたの息子は警察に狙われていたのか

いや。私の息子は友達の誰からも好まれていた。息子は善良でなにも悪いことはしていない。ア
リは、泣き叫び、もうこれ以上質問はしてくれるなと言った。

みなさんは、このインタビューを通して、息子を亡くしたイラク人がどのように思っているかは
おわかりいただけるでしょう。

その後、私は安置所で働いている職員にインタビューしようとしたが、ジャーナリス
トを入れてはいけないと指示されているので、入ることは認められないと拒否された。中で働い
ている職員の1人の名前は、アデルと言った。彼はエジプト人で、私にできるだけ速やかに立ち
去るように勧告してくれた。前の管理者（名前はファイク・バクル）は、最近の数ヶ月で700
0人のイラク人がデススコッドに殺されたこと、しかも、そのほとんどが手を後ろで縛られて
いたことを発言したために、死の脅しを受けているという。

私は、遺体安置所を去り、他に、安置所内で起こっていることを知っている人を捜したところ、
安置所の近くで駐車場の警備員をみつけた（名前はラマダン）年齢は40から43だと思う。

- 毎日、何体の遺体が安置所に運ばれてきますか

ラマダン：1週間前には、1日で100体以上もの死体が、アルタジ（バクダットの北60キロ）
から運ばれていた。20体の日もある。平均して50から60体。死体の95パーセントは民兵
がデススコッドによって殺されたものだと言った。彼は、ここでは毎日悲しい光景ば
かりなので、一日もはやく他の場所で働き口を見つけたいと言っていた。

- あなたは安置所の中に入ったことがあるのか

何回もある。死体を運び入れるのを手伝っているからだ。

- それだけの数の死体を保存するのに十分な冷蔵機能はあるのか

もちろんありません。死体は次々と重ねられていますし、床にも置かれています、安置所の中は
いたるところに死体が置かれています。

- 死体はスンニかシーアか

いまやイラクは宗派戦争となっており、双方から死者がでている。

- どうして双方からの死者であることがわかるのか

家族が遺体を引き取るのをみているとわかる。

これでインタビューを終わった。多くの悲惨な話ではあった。どうして理由もなく人を殺すの
か、私の国イラクを悲しく感じる。

最後に、遺体安置所で働いていたカイス・ハッサン医師の衛星放送での発言を紹介します。

バクダット中央遺体安置所が受け入れた遺体は、2006年1月 1068、 2月 111
0 3月 1294 4月 1115 2003年の占領以前は、日平均で7ないし10体
であった。

フリーランス・カメラマン

イサーム R アブドール ラーマン